

財務省と農林水産省に要望書を提出しました。

また、県内外の現場を視察し様々な活動を行いました!



財務省 青木孝徳 主税局長に要望書を提出



農林水産省 滝波宏文 副大臣に要望書を提出



川俣町のアンスリウム栽培の様子を視察



株式会社HANERU葛尾のバナメイエビ養殖を視察



福島大学の学生と意見交換



高知大学IoP共創センターを視察



香川県の農業試験場を視察





↑渡邊毅 事務次官
青山豊久 林野庁長官への
要望の様子

←農林水産省 山本佐知子
大臣政務官への
要望の様子

福島から日本を動かす
新総裁にひとこと物申す!



トークイベントに参加しました!



2024年9月21日「誰もが誇れるふるさとの創造」を理念に活動する「創造郡山」主催の福島県内に住む20代・30代の若者の声をまちづくりに活かすためのトークイベントにパネリストとして参加して参りました! 若い方々の政治への関心や考え方、様々な意見交換を行い、大変有意義な会でした。

福島県議会議員

佐藤てつや

誰もが誇れる“ふるさと”の創造

一年で最も寒い時期となりました。しかも、この冬は久方ぶりの寒い冬となっておりますが、皆様お変わりございませんでしょうか。

昨年は、福島県議会農林水産委員会の副委員長として、継続した県内の農林水産業の支援と振興を図るべく、財務省や農林水産省へ予算確保に関する要望を行うほか、葛尾村ではバナメイエビの陸上養殖の様子や川俣町ではアンスリウムの栽培など、県内各地を視察して参りました。地域の特性を活かした新たな取り組みに触れることができ、県議会としても更なる支援や振興に力を尽くさなければならないと肝に銘じた次第です。

また、所属するICT化検討会で検討してきた議会のペーパーレス化が、令和7年2月定例会から本格導入されることになりました。福島県では「福島県2050年カーボンニュートラル」を宣言し、2050年までに脱炭素社会の実現を目指していますが、県議会としてもこの取り組みを強力に推進して参ります。

“佐藤てつや”はこれからも、皆様の抱えているお悩みごとを
ひとつひとつ解決するべく、精進して参ります。

これからも変わらぬご支援とご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。

佐藤てつや プロフィール



根本拓衆議院議員と辻立ちを行いました

昭和43年4月19日生まれ。

郡山市鶴見坦出身
郡山市立薫小学校卒業
郡山市立郡山第一中学校卒業
福島県立郡山高等学校卒業
工学院大学専門学校
夜間部建築科研究課程卒業



- 趣味／音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦、キャンプ
- 特徴／身長180cm、常にパワー全開！元気一番！妻、ネコ2匹と暮らしている。

平成18年	郡山市立薫小学校 父母と教師の会会長（平成22年まで）
平成21年	郡山市PTA連合会副会長
平成23年	郡山市立郡山第一中学校PTA会長
平成23年	郡山市議会議員（連続3期）
平成26年	福島県立安積黎明高等学校PTA会長
令和４年	福島県議会議員（2期目）

所属委員会

- ◆農林水産委員会（副委員長）
- ◆少子高齢化・地域活性化対策特別委員会

福島県議会における佐藤てつやの質問と解説

デジタルマーケティングを活用した観光誘客について

Q 本県の魅力ある観光資源を旅行客にしっかりと届けるには、デジタルマーケティングの活用が効果的であると考えます。インターネットを通じて広範囲に情報を発信し、ターゲットとなる旅行客にアプローチできるため、特定の地域や年齢層に向けた広告を展開することで、効率的に福島県の魅力を伝えることができます。
そこで、**県は、デジタルマーケティングを活用した観光誘客にどのように取り組んでいくのかお尋ねします。**

A ホープツーリズムなどの参加者がオンラインコミュニティ上で交流できる仕組みを構築し、旅行客の興味関心をAIによりデータ分析しながら、効果的なプロモーションに繋げるなど、デジタルマーケティングを活用した観光誘客の推進に取り組んで参ります。



てつやの解説

知事が年頭の挨拶で述べた通り、2026年に本県でJR6社の大型観光企画「デスティネーションキャンペーン（DC）」が開催されます。県はプレDC、アフターDCを含む3年間の入り込み数は計4,800万人以上を目標に掲げています。目標達成には、観光パンフレットなどの従来型のPRに加えて、インフルエンサー等を活用したデジタルマーケティングが有効と考えます。

看護職員の確保について

Q 看護師は、人の命や健康を支え、患者さんが元気になっていく姿を間近で見ることができるなど、非常にやりがいのある職業です。高齢化の進展により、医療ニーズは今後も高まることが見込まれる中で、社会にとって欠くことのできない重要な仕事でもあり、より多くの若者が看護職員を目指していくように、やりがい等を積極的に伝えていく必要があると考えます。
そこで、**県は、看護職の魅力をどのように発信していくのかお尋ねします。**

A これまで看護師等養成所の進学相談会や小中学校及び高校への出前講座などを行って参りました。今年度は地域の現状を学びながら実際に医療施設で働く看護師との交流を通じ、仕事のやりがいや医療の現場を知ることができる体験型のツアーを県内全域で実施します。



てつやの解説

看護職員の養成所に進学する学生の数が大きく減少しており、このままでは地域医療への影響が心配されるところです。そのような状況の中、県看護協会が運営するナースセンターでは看護師のサポートや患者の世話を担う看護補助者の求人・求職の取り扱いをハローワークと連携して始めるなど自助努力を進めており、看護師の魅力発信は看護人材を確保するため極めて重要です。

皆さんの声、ぜひお聞かせください！
佐藤てつや事務所
〒963-8862 郡山市菜根三丁目39-7
E-mail:sugar503@cameo.plala.or.jp
TEL.024-934-2585
FAX.024-926-0943
X（旧Twitter） @satotetsuya963
Instagram @satotetsuya963
SNSで情報を発信しています!